

学校法人神奈川大学将来構想

実行計画

2018-2028

学校法人神奈川大学

www.kanagawa-u.ac.jp

■横浜キャンパス

横浜市神奈川区六角橋3-27-1 〒221-8686
tel: 045-481-5661(代表)
大学院 法学研究科/経済学研究科/外国語学研究所/人間科学研究科/工学研究科/
歴史民俗学研究所/法務研究科
大 学 法学部/経済学部/外国語学部/人間科学部/工学部

■湘南ひらつかキャンパス(SHC)

平塚市土屋2946 〒259-1293
tel: 0463-59-4111(代表)
大学院 経営学研究科/理学研究科
大 学 経営学部/理学部

■中山キャンパス

横浜市緑区台村町800 〒226-0014
tel: 045-934-6211
附属学校 神奈川大学附属中・高等学校

■みなとみらいエクステンションセンター(KUポートスクエア)

横浜市西区みなとみらい2-3-1 クイーンズタワーA 14F 〒220-6014
tel: 045-682-5553
生涯学習・エクステンション講座



学校法人神奈川大学 将来構想実行計画の 推進にあたって

学校法人神奈川大学は2018年、創立90周年を迎え、次の100周年に向けて大躍進します。その起爆剤は、2020年秋に完成し、2021年4月開設予定の「みなとみらいキャンパス」です。2019年、開港160年を迎え、日本の近代化、国際化の玄関口として発展してきた横浜のシンボリック存在の「みなとみらい21地区」。その中心に位置する新キャンパスの存在は、「知の交流拠点」として地域のランドマークの役割を担うでしょう。

みなとみらいキャンパスは、新設の国際日本学部(設置構想中)と外国語学部、経営学部の国際系3学部が集約され、5,000人の学生に教養豊かな国際人としての教育をします。また横浜キャンパスは、外国語学部が移転した後、2023年に理学部が移転し、理工再編をにらんだ魅力的な学園として発展します。既存学部ともども、みなとみらいキャンパスの各学部と学際的な連携を図ることも目標にしています。

本法人は、2008年の創立80周年を機に100周年に向けた「学校法人神奈川大学将来構想」を社会に公表。2010年に「第一期中期実行計画」、2016年に「第二期中期実行計画」をそれぞれ策定し、これまで推進してまいりました。

この度、「みなとみらいキャンパス計画」が始動。新学部開設と既存学部の再編などに伴い、横浜キャンパスの整備事業も大きく見直すことになり、「キャンパス新総合計画」をつくることになりました。

これらの計画を実現し、競争力を強化、社会的ポジショニングを高めるためには、財政基盤の強化が絶対条件であり、「中長期財政計画(2018-2028)」を策定しました。また、併せて「第二期中期実行計画」の見直しも行い、今回、「将来構想実行計画」としてとりまとめました。

「100年の計」というべき大事業を推進するわけですので、本計画についてスピード感を持って事業を実施してまいりたいと存じます。今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2018年5月
学校法人 神奈川大学
理事長 牧内良平



新しい時代にふさわしい 「知の拠点」を目指して

創立100周年に向けて、21世紀の知識基盤社会を先導する新しい神奈川大学を創生するための希望と期待に満ちた全学改革が始動します。全ての教育組織の改革を進め、時代を切り拓く「知の拠点」としての責務を全うする新生神奈川大学として生まれ変わります。

米田吉盛先生が、横浜桜木町に本学の前身である横浜学院を開設して「教育は人を造るにあり」と説いて以来、卓越した研究に基づく教育重視の伝統を堅持して、世界に通用する有為な人材を輩出し続けてまいりました。

この良き伝統を大切にして、建学の精神に立ち返り、人類に貢献する高い研究力と教育力を備えた「人を造る」大学、どこよりも「人を造る」大学としての責務を全うしてまいります。

本学は、世界に開かれた国際都市・YOKOHAMAの総合大学として、多様な価値観が存在し、液状化が進む混迷の時代を先導するため、研究分野においても時代を切り拓く未知の分野や人類の課題に積極的に挑んでまいります。これらの研究の叡智を教育に還元するとともに、本学が伝統的に重視してきた教養教育により思考力、判断能力、検索情報を精査するリテラシー能力などの社会人としての基礎力を培い、変容する資本主義社会をしなやかに生き抜く実践的能力と国際的感性を身につけた「良識ある市民」を育成し、人類の福祉と未来社会の安定に寄与してまいります。今後の本学の動向にご期待いただければ幸いです。

2018年5月
神奈川大学
学長 兼子良夫

学校法人神奈川大学 将来構想について



学園の理念

○建学の精神「質実剛健・積極進取・中正堅実」

本学園は、1928年米田吉盛によって創立され、「質実剛健・積極進取・中正堅実」の建学の精神のもと、今日まで多くの有為な人材を実業界をはじめ各界に送り出し、社会の発展と安定に寄与してきました。建学の精神である「質実剛健」とは、伝統・古典を尊重し、良識を重んじ、正義を貫くという価値観を意味し、「積極進取」とは、困難なことに對して積極的に挑戦し、進歩・進化を求めていくという価値観を意味します。そして「中正堅実」とは、これら二つの価値観を深く自覚し、自律の精神と共生の視点から「探究・調和・融合」することにより、真理・本質を見極め、自主的・主体的性を持って新たな価値を創造していくことを意味します。

○使命(ミッション)

私たちは、建学の精神のもと、時代と社会の課題や使命を地球的視野から深く自覚するとともに、真理を希求する姿勢を持ち続け、自律の精神と共生の視点から主体的に新たな価値を創造する人材を育成し、未来社会の発展と安定に寄与します。

○100周年に向けた将来像(ビジョン)

海により開かれ、世界との接点となった横浜に生まれた本学園は、多様な価値観の共存する時代に、人の交流と文化の融和、知識と実践の循環、教育と研究の融合による21世紀における「真の実学」を実現し、地域社会そして地球規模の課題を解決する、世界を惹きつけ、世界に発信する学園を目指します。

学園の目標

「競争力を強化し、社会的ポジショニングを高め、魅力ある学園を構築する。」

1. 教育組織総合計画、教員組織総合計画、キャンパス総合計画を推進し、魅力ある学園を構築する。
2. グローバル社会の中核を担う、主体性を持ち新たな価値を創造する「中正堅実」な人材を育成する。
3. 幅広い教養、専門的な知識のもと、人間形成を行う「真の実学」により教育の質を高め、学生・生徒の成長を支援する。
4. 社会の諸課題の解決に取り組む専門的な研究を推進する。
5. ガバナンス及びマネジメントを改革し、経営基盤を強化する。

実行計画の重点事業

1. みなとみらいキャンパス計画の推進
2. キャンパス新総合計画の推進
3. 国際系新学部の設置と魅力的な教育組織の構築
4. 将来構想を推進するための財政基盤の強化



— みなとみらいキャンパス開設と創立100周年に向けて —

■新学部設置、教育組織新総合計画

2020年4月開設予定の新学部「国際日本学部(設置構想中)」は、みなとみらいキャンパスの構想コンセプトのもと、国際と日本の融合を重点に、それを特色化できる教育プログラムを設置することを掲げており、本学の社会的競争力とブランド力向上に寄与します。

学科は「国際文化交流学科(設置構想中)」、「日本文化学科(設置構想中)」、「歴史民俗学科(設置構想中)」の3学科を予定しています。国際文化交流学科(設置構想中)においては、文化交流コース、観光文化コース、国際日本学コース、言語・メディアコースの設置により特色化を図り、日本文化学科(設置構想中)においては、国語科教職課程を設置することが予定されており、歴史民俗学科(設置構想中)においては、「歴史学」と「民俗学」を重点的に学ぶことにより学部全体の魅力を創出します。

学部学科の教育プログラムの充実などの新機軸による教育組織新総合計画は、2020年4月の新学部開設、2021年4月のみなとみらいキャンパス開設に向けた経営学部の国際経営学部(仮称)への名称変更の検討、理学部・工学部の再編を含め、順次教育組織の再編などを行ってまいります。



■みなとみらいキャンパス計画、キャンパス新総合計画

2011年に横浜キャンパスマスタープランを策定し、3号館や29号館(国際センター)等の建設を進めてきました。2017年4月に、みなとみらい21地区43街区の開発事業者に選定され、新たなキャンパスを設置することが決定しました。

みなとみらいキャンパス開設に伴い、既存の湘南ひらつかキャンパスに設置している経営学部をみなとみらいキャンパスへ、理学部を横浜キャンパスへ移転するため、横浜キャンパスマスタープランを見直し、横浜キャンパス、附属学校及び大学の体育施設のある中山キャンパスを含めた総合的な施設整備計画となるキャンパス新総合計画を推進します。

【みなとみらいキャンパス計画概要

みなとみらいキャンパスは、これまでの歴史と伝統の上に、世界標準の人材を育成する都市型、未来型キャンパスとして、「国際・日本」が融合した未来「創造・交流」キャンパスを目指し、2020年秋に竣工、2021年4月の開設を予定しており、校舎は高さ約99m、地上21階、地下1階、延床面積約49,600㎡の建物となります。

設置学部は、2020年に開設を予定している国際日本学部(設置構想中)、外国語学部、経営学部(※)のグローバル系学部の集約を予定しており、学生数5,000名規模のキャンパスとなります。

※経営学部は、国際経営学部(仮称)へと名称変更を構想中

【キャンパス新総合計画概要

キャンパス新総合計画は、みなとみらいキャンパス開設、経営学部、理学部の移転に伴う横浜キャンパスマスタープランの見直し、体育・スポーツ施設の整備、附属学校及び大学の体育施設のある中山キャンパスを含めた総合的なキャンパス整備計画です。

本総合計画は、みなとみらいキャンパス開設までを第1期事業(2018年度～2020年度)、理学部の横浜キャンパス移転までを第2期事業(2021年度～2022年度)、理学部移転後の2023年度から創立100周年までを第3期事業として構想しています。

なお、湘南ひらつかキャンパスの利活用については、2023年を目途に計画の策定を進めます。

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
本学の動き	創立90周年 将来構想実行計画(2018-2028)策定 中長期財政計画(2018-2028)策定										創立100周年
みなとみらい キャンパス計画	みなとみらいキャンパス建設			みなとみらいキャンパス開設 ・国際日本学部(設置構想中) ・外国語学部 ・経営学部 移転							
キャンパス 新総合計画	新国際生寮(仮称)建設										
	30号館(宮内会館(仮称))建設										
	体育・スポーツ施設の充実(中山キャンパスグラウンド整備等、体育・スポーツ施設整備)										
	横浜キャンパス図書館改修										
理学部移転に伴う横浜キャンパス既存校舎改修及び理学部・工学部再編に伴う実験施設棟の整備											
										理学部移転 (横浜キャンパス)	
新学部構想	国際日本学部(設置構想中)開設準備		国際日本学部(設置構想中)開設								
教育組織新総合計画	理学部・工学部再編など各学部等の新機軸による教育プログラムの充実										

※上記各計画のスケジュールは今後の検討状況により変更となる可能性があります。

■中長期財政計画概要

中長期財政計画(2018-2028)は、将来構想実行計画(2018-2028)の最重要施策である、みなとみらいキャンパスの開設、横浜キャンパス及び中山キャンパスの施設整備計画、国際日本学部(設置構想中)等新教育組織の設置や新機軸による教育組織の再編などを実行しつつ、創立100周年以降もさらに発展するための安定的な財政基盤を確立することを目指した計画です。

中長期財政計画(2018-2028)で実現を目指す主な施策

- 各学部等の新機軸による教育組織の充実
- 新機軸による教育プログラムと教員組織の充実
- 教育環境整備のための施設設備の充実
- キャンパス新総合計画の推進

中長期財政計画(2018-2028)では、上記の事項の実現に向け、キャンパス新総合計画で示している第1期(2018年度～2020年度)、第2期(2021年度～2022年度)、第3期(2023年度～2028年度)の事業期ごとに諸施策を実施します。



附属学校の実行計画

●常に学び続け、社会的に評価される教育の実践 ●地域で一番の中高一貫共学校

1. 21世紀の知識基盤社会、グローバル社会の中で「主体的に考え、判断し、行動できる人」を育成する。
 - A 教科学習活動による自己表現力の向上 B 特別活動による主体的行動力の育成
 - C 課外活動による自律的活動力・安全管理能力の養成
2. 進学校として、確かな学力を基本に「社会的に評価される進学実績」を維持する。
 - A 基礎・基本学力の定着をベースにした大学進学学力の向上 B 生徒の将来を見据えたキャリア教育の推進
3. 多様な学習活動を通じて、「創造性と豊かな人間性」を涵養する。
 - A 豊かな人間性の涵養 B 創造性の涵養